名古屋市の道路緑化について

名城大学理工学部　正　員　　藤田晃弘
同　　学生員　○京谷保則

1　はじめに

都市内の道路緑化は、近年漸増の傾向にあるが環境保全の立場からは十分のものとはいえないのが現状である。名古屋市においては戦後他都市に先がけて近代的な都市計画が施行され広い道路の建設が急速に進みはしたが、直接的な交通機能を重視するあまり植栽の問題には、あまり関心が向けられなかったきらいがある。市民からは「白い街名古屋」を「みどりの名古屋」にしょうという気運が高まりつつある。そこで市内主要街路30路線を選定し、現地調査を行ない、かつ道路緑化に関する住民の意識予備調査を行なった。これらの調査結果の検討を通じ、市民優先の理念に立った道路緑化について2,3の提案を試みた。

2　道路緑化の現況と現地調査

市内の街路樹は約8万本で、市民100人当り約3.7本の割合となる。これを主要都市と比較したものが表－1である。さらにこれを道路面積約4200万平方メートルに占める比率をとれば約1.8パーセントになる。

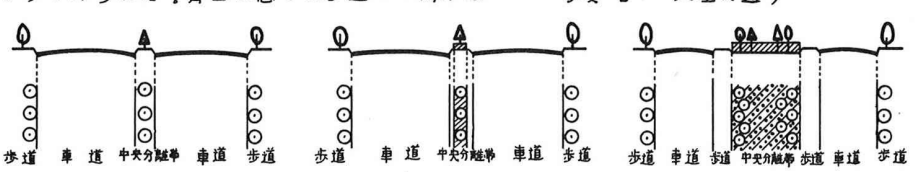
表-1　主要都市における街路樹本数（50年7月現在）

都市名	名古屋	東京	大阪	福岡	札幌
100人当り本数	3.7	1.4	30.1	1.6	4.8

写真-1　広小路通り

写真-2　久屋大通り

現地調査の内容は路線毎に車道,歩道幅員、樹種、樹高、植栽形式、植栽間隔、樹木育生状態等を調べたが、樹種は高木の内トウカエデとイチョウで全体の約50パーセントを占め他はアオギリ、プラタナス、シダレヤナギ、ナンキンハゼ等であり、植栽形式は規則形単純植栽と規則形混合植栽がほとんどで市内の代表的な久屋大通り、100メートル道路では自然形混合植栽である。主な植栽形式は図－1に示すとおりである。植栽間隔は、歩道上の高木で約8メートル、中央分離帯における中木では約5メートルのものが多くみられた。育生状態では歩道上の高木は



例1 規則形単純植栽　　例2 規則形混合植栽　　例3 自然形混合植栽

図－1　植栽形式

一般に良好であるか　剪定，除草不良，病害虫もかなりみうけられた。中央分離帯の中木，低木本数は，大気汚染　粉塵，有害ガスにより不良が多いといえよう。

3 道路緑化に関する意識予備調査結果

歩行者側から見た道路緑化の意識予備調査（250人対象，集計率81パーセント）結果によると約75パーセント以上の人々が街路樹が少ないと感じ，市全域の道路緑化を計るべきだと答えている。街路樹の機能に対する意識としては　90パーセント近くの人々が景観的な調和，通行の快適性の向上，大気の浄化の効果があると感じている。また，道路緑化に関する要望では　配植計画で市中心部に片寄りすぎているので周辺部　特に　公害地域には積極的に緑化してほしいとの意見が多く，植栽形式，方法および維持管理の面でも画一的植栽で情緒がなく花木　草木を取り入れたりしてその地区に適した，また，環境にマッチした修景機能を高めるべきであり，住民が草木を愛し　育生し我々の手で管理するのだという気持を高めるべきだと述べている。

運転車側からみた道路緑化の予備調査（250人対象，集計率67パーセント）で中央分離帯の機能は夜間走行時における対向車の減光防止　運転中の不快感を柔らげる効果があるという意見が多く，要望ではやはり歩行者と同じように全区域バランスある増植を望んでいる反面，運転上の立場から植栽形式，方法の内で中央分離帯の植栽をもっと密にし，交差点付近では視界悪化の為低木にすべきであり，維持管理面では信号，標識等が見にくい場合があるので剪定と整姿に不断の適切な処理の必要性を強調している。

次に市内の主要街路で，道路緑化が周囲と調和かとれて歩行　走行して快適な気持ちになると思われる街路名は，表－2に示すとおりである。

表－2

	歩行者		運転者	
1	桜通り	48人	桜通り	48人
2	広小路通り	18人	広小路通り	14人
3	100m通り	12人	若宮通り	14人
4	若宮通り	11人	100m通り	12人
5	伏見通り	6人	久屋通り	8人
6	錦通り	6人	伏見通り	5人
7	東山通り	5人	山手通り	4人

4 道路緑化に対する提案

以上の予備調査にもとずき植栽について2,3の具体案を述べれば次のようである。

歩　道
- 街路樹の間隔を縮め密にする。
- 街路樹の間隔に高木と低木を合せて植栽する。いうなれば「連続植栽」にする。
- 歩道帯にツツジなどの花の実る低木を植栽する。
- 落葉樹から常緑樹に逐次切りかえる。
- 歩道幅員3メートル以上の道路にも植栽してゆく。

中央分離帯
- 中央分離帯を「連続植栽」で帯状にしてゆく。
- 交差点付近の植栽をトベうなどの低木群にする。
- 従来の中木と中木の間の鉄柵をやめて中木あるいは低木にかえる。
- 中央分離帯においても高木を植栽する。

5 あとがき

以上道路緑化の具体案を簡単に述べたが，今後さらに市　住民が一体となって緑化運動を盛り上げ心身のやすらぎを感じるような街路作りを押し進め，それに加えて歩行者天国的な要素を提供して車のためのものだけでなく　もっと人間の生活をエンジョイできる多様性をかねそなえたものにしてゆくべきであろう。